根拠に基づいて自己の意見を形成する力の育成
～文学教材の的確な読み取りと対話的な活動を通して～

福島県立梁川高等学校　教諭　及川　俊哉

1　研究の趣旨

2016年の中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、「多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること」の必要性が述べられている。しかし、本校の生徒の実態としては、心情に対する解釈や読後の感想を述べさせると、「悔しいと思っている」「登場人物がかわいそうだった」などと、具体性に乏しく、根拠の伴わない感覚的な意見を述べるにとどまる者が多い。そこで、生徒が論理的に思考して、意見を述べることができるように、作品の叙述を根拠とし、それに基づいて自己の意見を形成する力を身に付けさせたいと考えた。

国語科の授業において、以下の手だてを講じれば、根拠に基づいて自己の意見を形成する力を育成することができるであろう。

【手だて１】　生徒の実態を踏まえ、「関心・意欲・態度」を向上させる支援
【手だて２】　根拠に基づいた読み取りをさせる工夫
【手だて３】　生徒が互いに関わり合うことで、自己の意見を検討する機会の設定

2　研究の概要

⑴　【手だて１】について

生徒の学習意欲を喚起するために「この授業では何を、どこまでやるのか」という学習の見通しをもたせ、主体的に学習に取り組む意欲をもたせた。また、文章に接することに抵抗感のある生徒たちに対し、文章を読む意義に気付かせる導入の工夫を行った。

⑵　【手だて２】について

「漢字や難しい語句などを学習する内容」「作品における「語りの視点」や特色ある言語表現（副詞や比喩など）に注意して、読みの精度を高める学習をする内容」「登場人物の会話や行動など、心情の変化が分かる表現に着目し、それらを根拠として自分の意見を述べる内容」などを含むワークシートを用いた。

⑶　【手だて３】について

作品の読解に関連して、対立する二つの立場のどちらかを選択して意見を述べる課題に取り組ませた。「生徒同士の対話を通して自己の意見を検討するとともに、根拠や理由の必要性を実感させる。」「他者との意見の差異に気付き、多角的な視点を獲得できるように、対立する視点や内容を基に話し合う活動場面を設定する。」「自己の意見の内容を検討する対話的な活動において、生徒が意見の変容を認識できるように、ワークシートを活用する。」などの点に留意した。特に実践Ⅱ（後期実践）では藤森祐治の「バタフライ・マップ」※1の形式を参考にした「話合いワークシート」を用いた。

※1　イギリスの哲学者Ｓ・トゥルミンの理論を踏まえ、「主張」・「根拠」・「理由」を明確に分けて記述できるように工夫されている。「根拠」の欄と「理由」の欄に貼り付けた付箋紙を移動させることによって、より妥当性のある理由を選択することができる。また、異なる立場からの反論を予想して論理を組み立てることができるなど、話合い活動を充実させる効果がある。

3　成果と今後の課題

⑴　研究の成果

【手だて１】によって、学習に対する興味・関心が高まり、教科書本文を読解する学習や話合い活動への参加も活発なものになった。【手だて２】は、文学教材を読解するための根拠を探す力を高めることにつながった。また、【手だて３】では、ワークシートを工夫することにより，生徒に相手意識のある意見を形成させ、根拠を土台として他者との意見のやり取りを行わせることで、自己の意見の内容を検討させることができた。

⑵　今後の課題

実践を通して、「根拠」と「理由」を意識して自己の意見を形成する力はおおむね身に付いたといえるが、その意見の内容面での向上については、まだ顕著な成果を得たとはいえない。対話的な活動における質の面での課題が残ったのも、質を高めるための観点を事前に提示できていなかった点に原因があると考える。今後は、意見の質的向上に向けて、対話的活動に焦点を当てて、より具体的な指導法を検討・構築していきたい。